

4. 歯科に関する生活習慣状況について(生活習慣調査より一部抜粋)

生活習慣調査は満 15 歳以上を対象に実施し、対象者数は 1,884 人、回答者数は 1,745 人で、回答率は 92.6%であった。歯科に関連する項目については以下の通りであった。

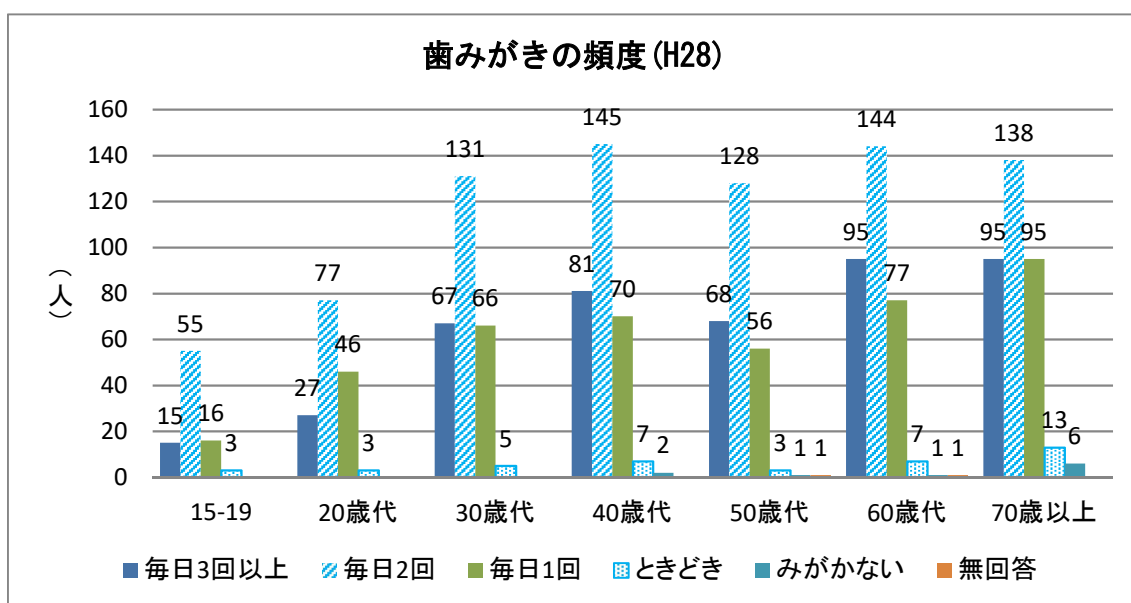
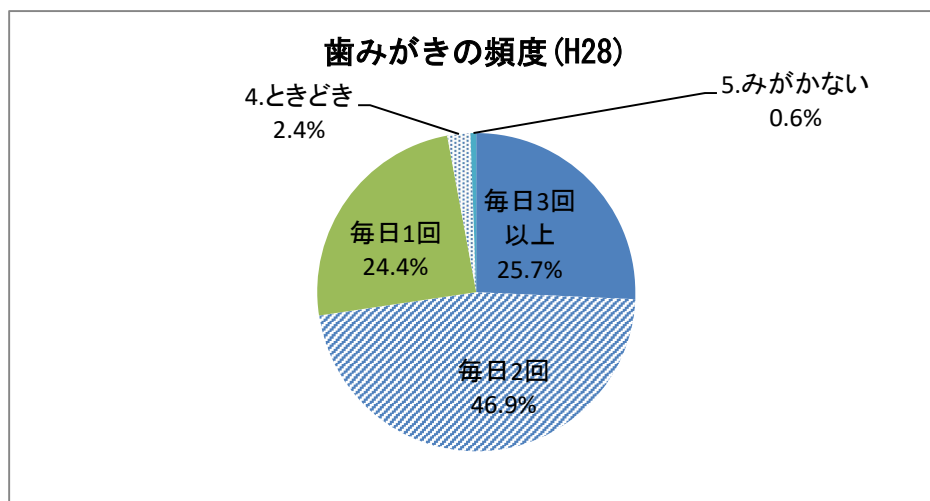
(1) 歯みがきの頻度

○平成 28 年度状況

歯みがきの頻度については、毎日歯をみがく者(1回・2回・3回以上)の割合が全体の 97.0%を占めていた。

毎日2回みがく者の割合が最も多く 46.9%、毎日3回以上の者の割合が 25.7%、毎日1回の者の割合が 24.4%であった。1日2回以上みがく者の割合が全体の 72.6%を占めていた。

年代があがると共に、3回以上みがく者の割合が増加傾向であった。



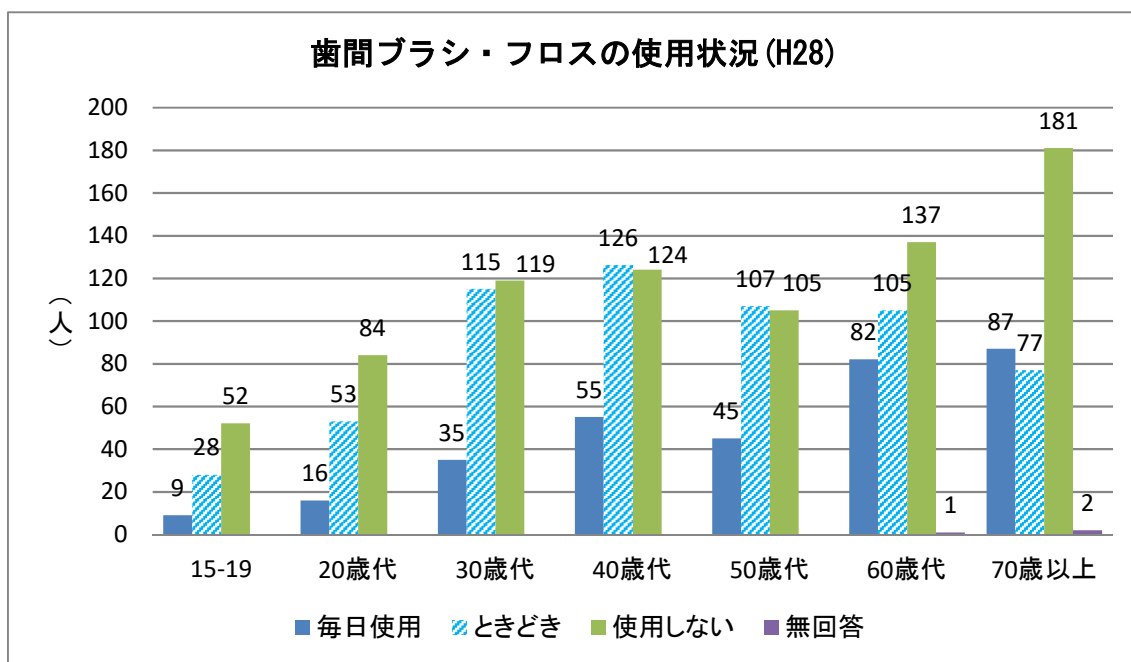
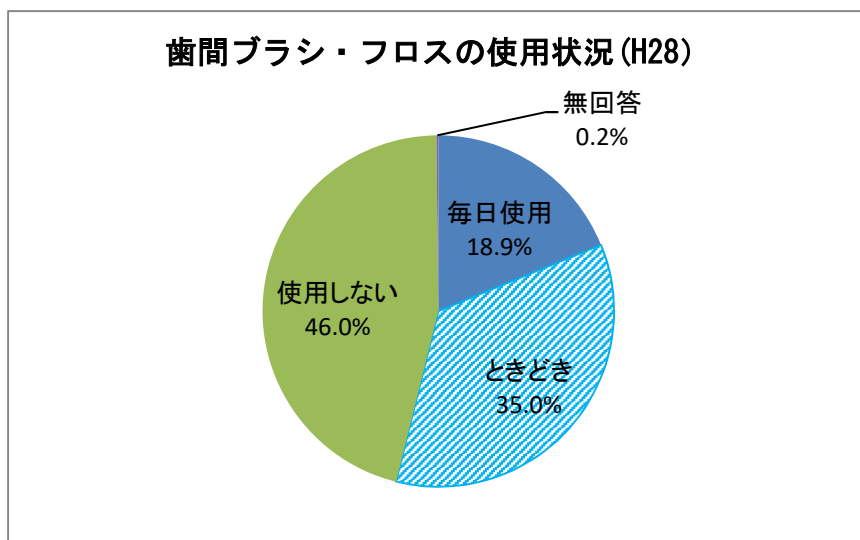
(2) 歯間ブラシやデンタルフロスの使用状況

○平成 28 年度状況

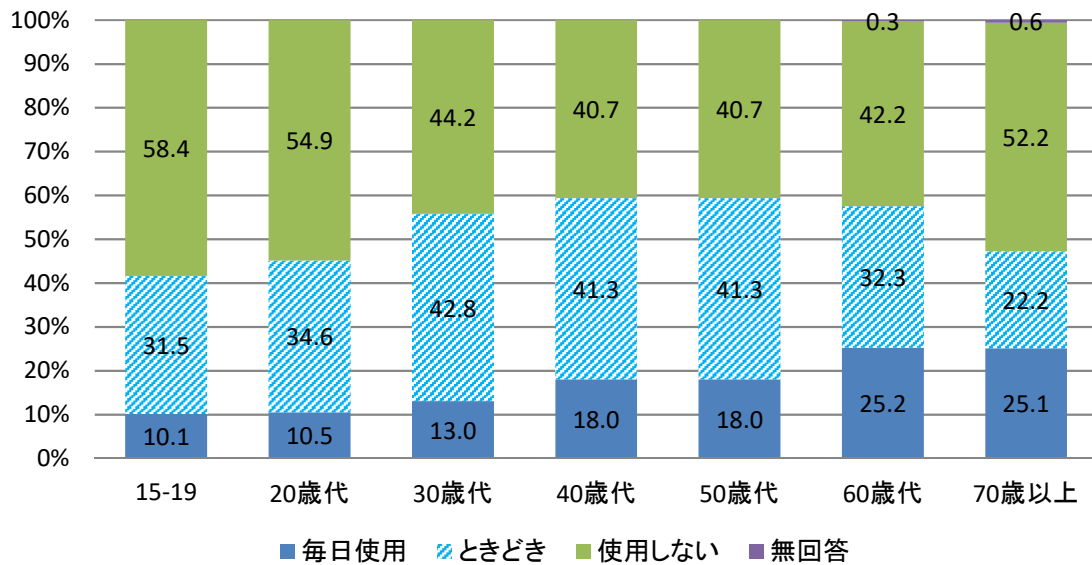
歯間ブラシやデンタルフロスの使用状況については、毎日使用する者の割合が 18.9%、時々使用する者の割合が 35.0%、使用しない者の割合が 46.0%であった。使用しない者の割合が最も多かった。

毎日使用する者の割合は、15-19 歳は 10.1%で最も少なく、その後年代が上がると共に増加し、60 歳代が 25.3%、70 歳代以上が 25.2%で最も多かった。

毎日使用する者及び時々使用する者をあわせて使用する者と定義すると、15 歳～19 歳が最も少なく 41.6%、その後年代が上がると共に増加し、40 歳代で 59.3%、50 歳代 59.1%でピークに達し、その後、緩やかに減少していた。



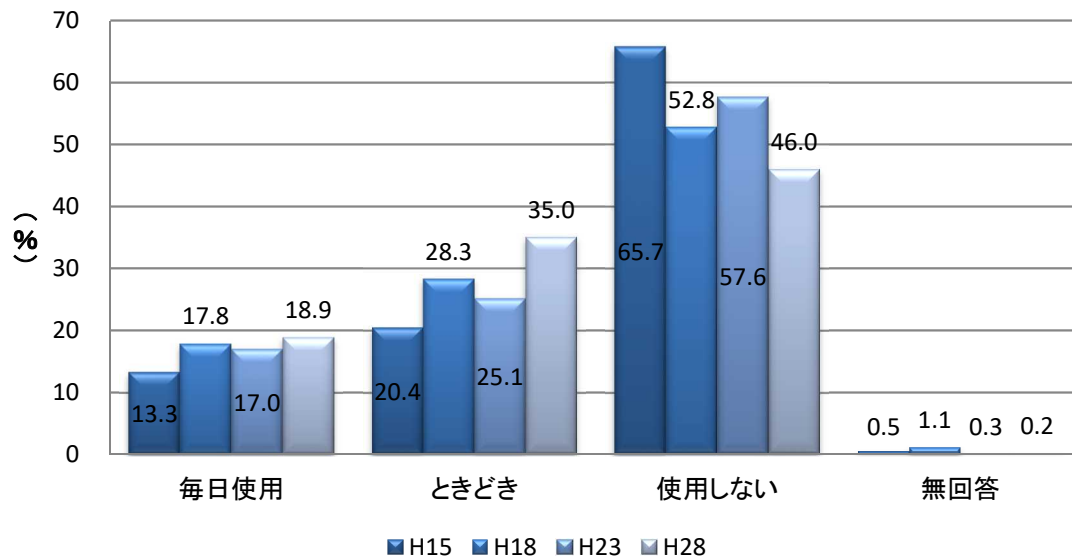
歯間ブラシ・フロスの使用状況 (H28)

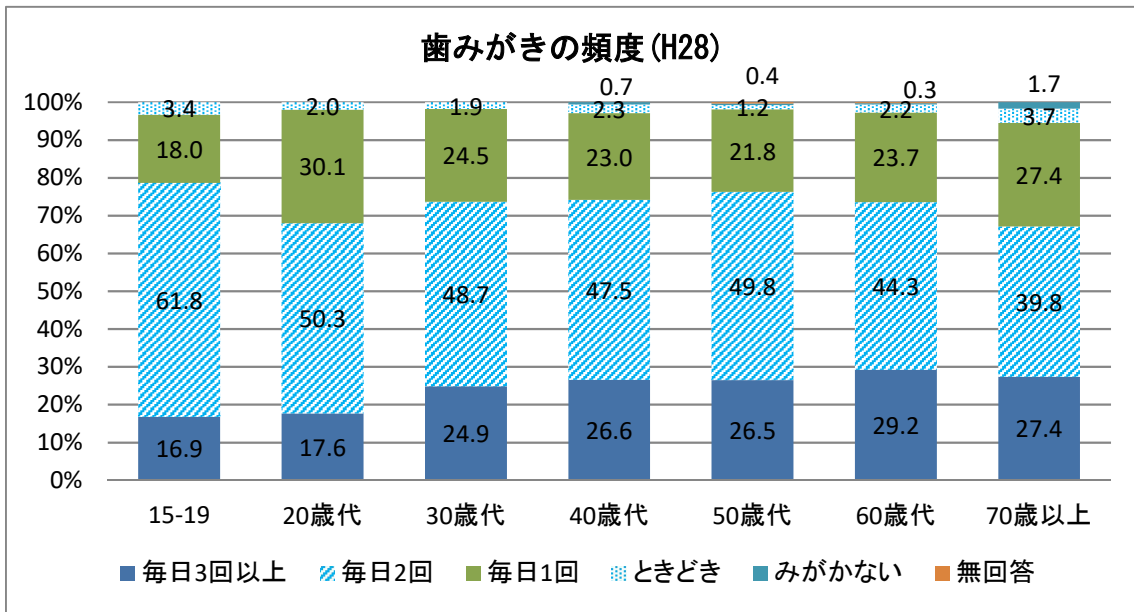


○経年変化

過去の調査と比較すると、毎日使用する者の割合はほぼ横ばい、時々使用する者の割合は増加傾向、使用しない者の割合は減少傾向を示していた。

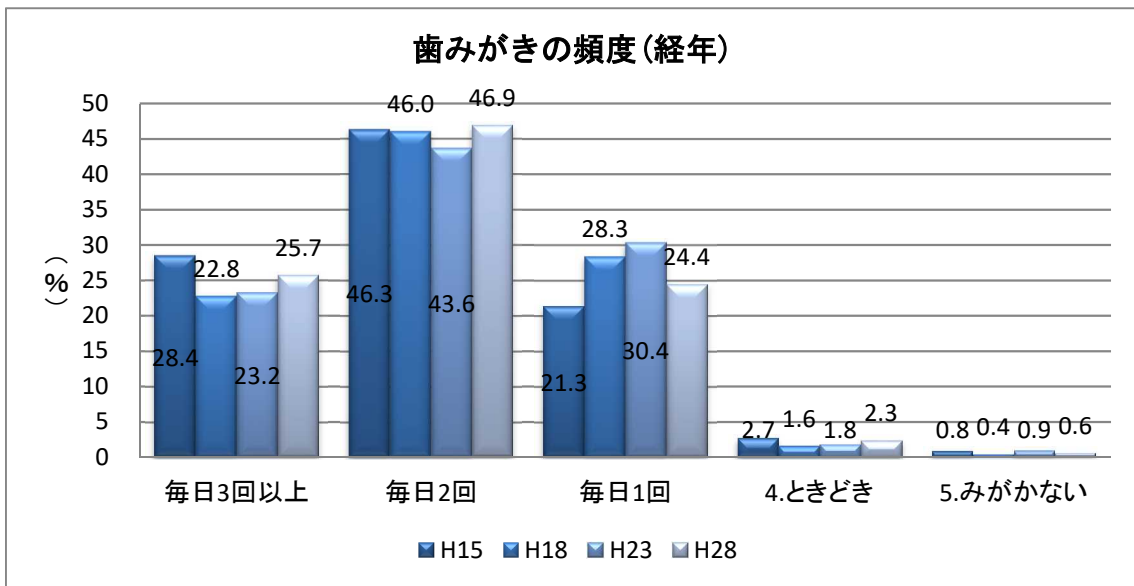
歯間ブラシ・デンタルフロスの使用状況 (経年)





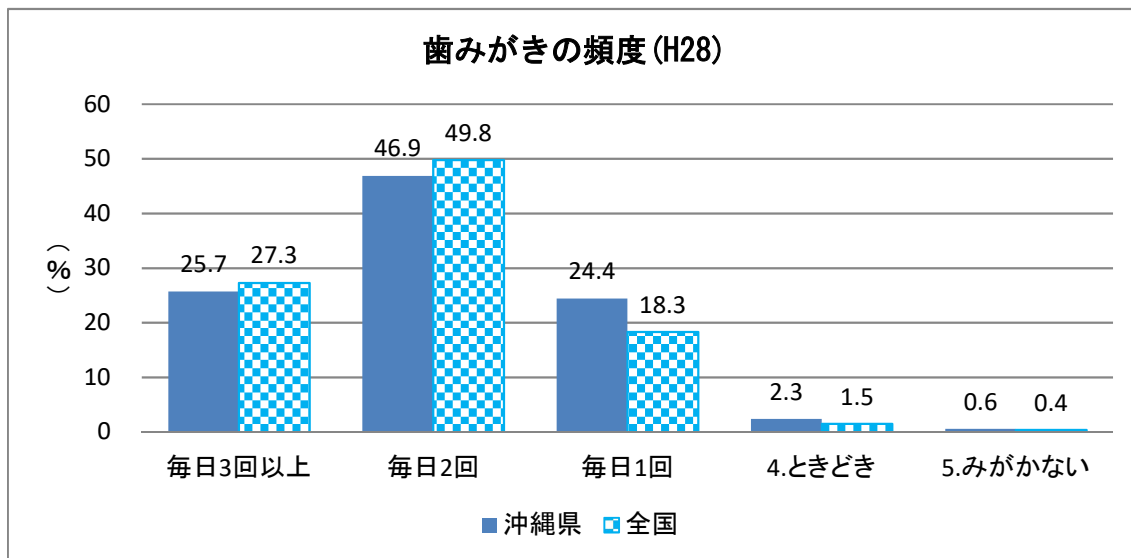
○経年変化

経年的に比較すると、どの頻度も、ほぼ横ばい状況であった。



○全国比較

全国に比較すると、毎日3回以上みがく者と2回みがく者の割合は全国に比べ少なく、1回みがく者及び時々みがく者、みがかない者の割合は高かった。



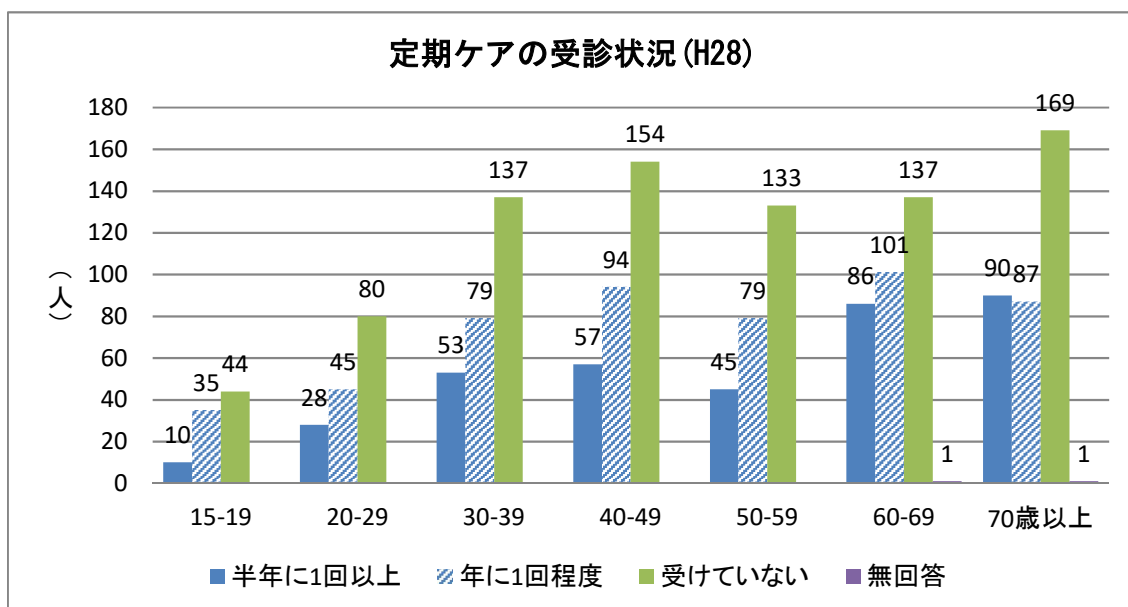
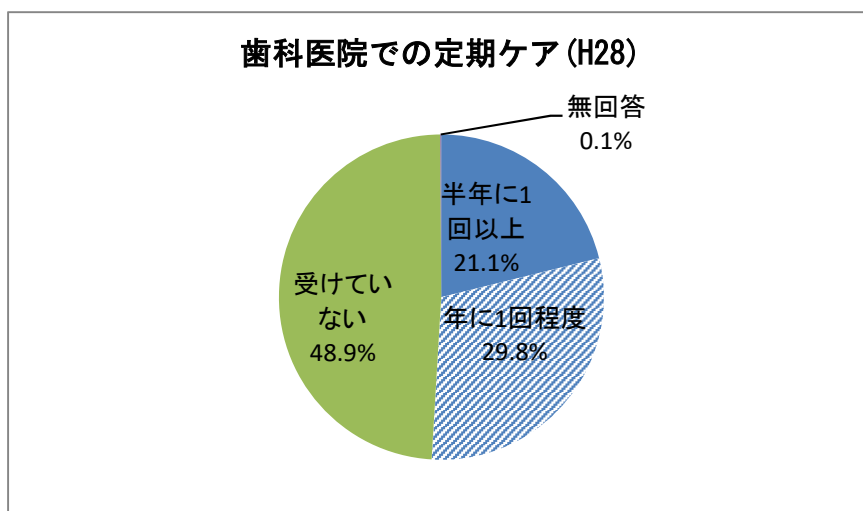
(3) 歯科医院での定期ケア受診状況

○平成 28 年度状況

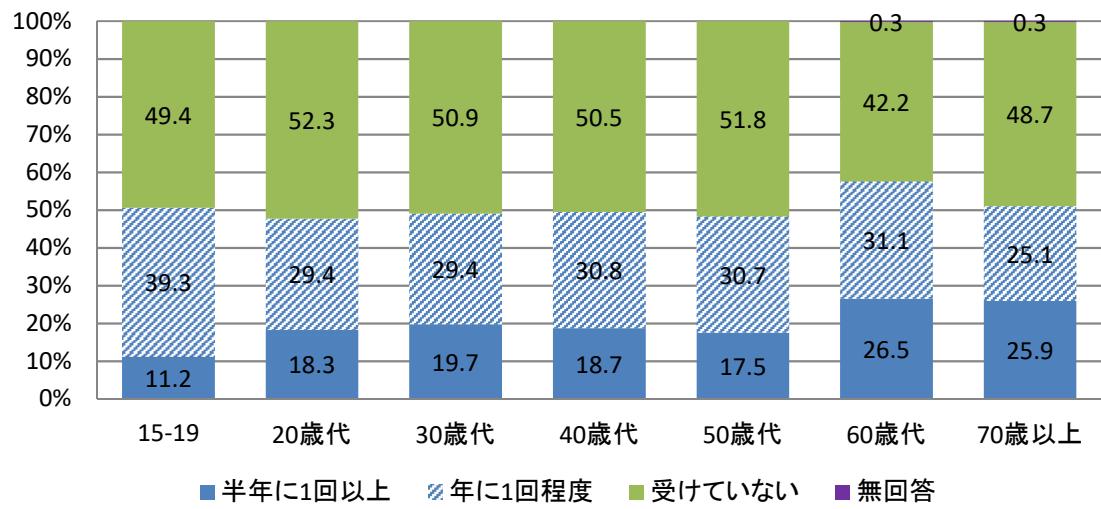
歯科医院での定期的な歯石除去や歯面清掃等の定期ケアの受診状況は、半年に1回以上受けている者の割合が、21.1%、年に1回程度受けている者の割合が29.8%、受けていない者の割合が48.9%で、受けていない者の割合が最も高かった。

半年に1回以上受けている者の割合は60歳以上の年代で約25%程度を占め、他の年代に比べると高い割合を占めていた。

半年に1回以上もしくは年に1回程度のケアを受けている者をあわせて、定期ケアを受けている者と定義する場合も、60歳代が57.6%で最も多かった。



定期ケア受診状況 (H28)

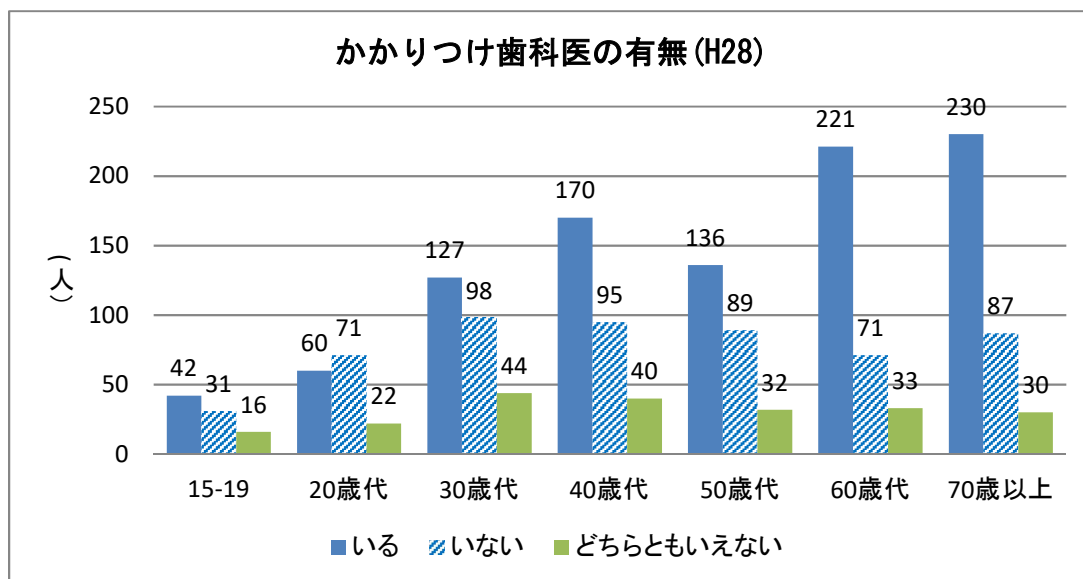
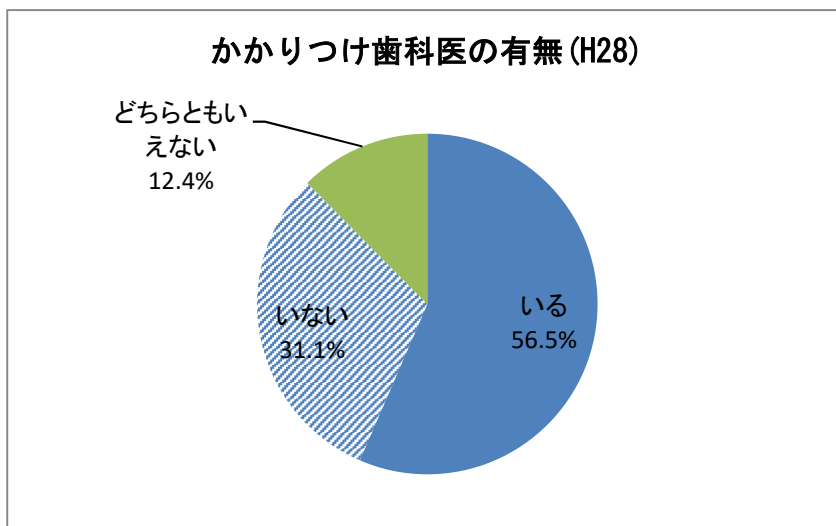


(4) かかりつけ歯科医の有無

○平成 28 年度状況

かかりつけ歯科医の有無については、いる者の割合が 56.5%、いない者の割合が 31.1%、どちらとも言えない者の割合が 12.4%で、いる者の割合が最も高かった。

60 歳代の 68.0%、70 歳代の 66.3%がいると回答しており、60 歳代以上の年代で高い割合を占めていた。年代が上がるにつれ、いる者の割合が高くなる傾向がみられた。



かかりつけ歯科医の有無 (H28)

